

おすすめ! 日本の子どもの本

Japanese Children's Books

— JBBY 選 海外にも紹介したい子どもの本 —

2018



JBBY

表紙画

『あさがお』（荒井真紀 作、金の星社）より

荒井真紀

1965年東京生まれ。16歳の時より熊田千佳慕に師事する。『たんぼぼ』（金の星社）で2017年ブラティスラヴァ世界絵本原画展（BIB）金のりんご賞受賞。ほかに、『あずき』（福音館書店）『チューリップ』（小学館）など。

おすすめ！日本の子どもの本

Japanese Children's Books

—— JBBY 選 海外にも紹介したい子どもの本 ——

2018

もくじ

- 3 | はじめに

- 4 | 絵本（29冊）
- 9 | 読みもの（23冊）
- 13 | ノンフィクション（29冊）

- 18 | キーワード索引

- 20 | 資料：国際アンデルセン賞 日本の受賞者と候補者
- 22 | 資料：日本のIBBY オナーリスト

- 23 | 選書・執筆チーム紹介

はじめに

JBBYとは

JBBY（日本国際児童図書評議会）は、IBBY（国際児童図書評議会）の日本支部として、1974年に創設されました。IBBYは、子どもたちが生きやすい平和な未来を築くため、子どもの本を通してさまざまな国や地域との相互理解を深めようという国際ネットワークで、現在76の国と地域が加盟しています。主な活動としては、「子どもの本の世界大会」の開催、「国際アンデルセン賞」や「IBBY朝日国際児童図書普及賞」などの贈賞、災害や戦争などの不安定な状況下にある子どもを本で支援するための「チルドレン・イン・クライシス基金」の提供などを行っています。

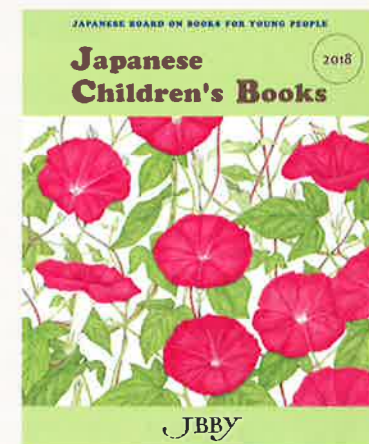
JBBYは、子どもの本を通して日本と世界の間を橋を架ける活動を行っています。その一環として日本国内で「世界の子どもの本展」「世界のバリアフリー児童図書展」などを主催し、IBBYのネットワークで世界中から集めたすぐれた児童書を日本の読者に見ていただき、またその情報も提供しています。それと同時に、たとえば国際的な賞などに日本の作家や画家を推薦したり作品を出展したりすることにより、日本の子どもの本に関する情報を世界に発信する活動も行っています。

2015年度からは毎年、海外に紹介したい日本の子どもの本約100点を英文で紹介する *Japanese Children's Books* も発行しています。ここに掲載されている図書は、JBBY会員の専門家が協議・検討を重ねたうえで選出しました。英語で読める日本の子どもの本の情報がこれまででは非常に少なかったことから、海外のブックフェアや国際会議、大使館や図書館などで役立てていただき、ささやかながら国際親善にも貢献しています。JBBYとしては、日本児童教育振興財団のご協力による継続的な発行が、海外の出版社の関心を集め、翻訳出版の増加につながるのではないかと期待しています。

このブックリストについて

このブックリストは、上記の *Japanese Children's Books* の日本語版です。日本語でも読みたいという声が多く寄せられたことから、日本のみなさまにも情報をお伝えしようと思い、出版が実現しました。ちなみに、ここには日本でオリジナルが出版された本のみを取り上げていますので、翻訳出版の児童書は含まれていません。2018年版は、2016年以降に出版された海外にも紹介したい児童書を（1）絵本（2）読みもの（3）ノンフィクションのカテゴリーに分け、それぞれ対象年齢の低い順に掲載してあります。出版社の表示とは異なる対象年齢が表示されている場合もありますが、ご了承ください。本の解説の末尾に執筆者の名前を記しました。巻末には資料として、歴代の「国際アンデルセン賞」日本人受賞者と日本から推薦した候補者、およびIBBYオナーリストに選出された図書を掲載しました。

2018年3月
JBBY 会長 さくまゆみこ



英語版ブックリスト表紙

絵本

2016年9月以降



ひよこさん

征矢清 さく、林明子 え

福音館書店 | 2017年 | 20頁 | 20×19cm | ISBN 978-4-8340-8314-9 | 0歳から | キーワード: 赤ちゃん まいご お母さん

日暮れ前、ひよこがよちよちおでかけ。「どこへいくの?」「もうすぐくらくなるよ」文とともに背景の植物のシルエットも、ひよこを心配して語りかけるようだ。暗くなり、ひよこは落ち葉の布団を自分にかけて眠る。安らかな寝顔は、世界を信頼している証。夜空も地面も植物も、きつてくれる母さんも、ひよこを見守っている。余分な描写を省いたコラージュだが、色から時間の移ろいを、質感からあたたかな存在感を読み取れる。(広松)



カレーライス

小西英子 さく

福音館書店 | 2017年 | 24頁 | 22×21cm | ISBN 978-4-8340-8280-7 | 2歳から | キーワード: たべもの 料理

「きょうの ごはんは カレーライス」「さあ、つくろう!」と、材料の玉ねぎ、にんじん、じゃがいも、牛肉を切り、炒め、煮込んでいく。カレー作りの過程を温かみのある絵で丁寧に描いた絵本。トントントンと切り、ジュージュー炒め、コトコトコトとじっくり煮込む。料理の音が楽しく響き、美味しいにおいも感じ取れる。料理の楽しさとカレーライスへの愛にあふれ、思わずカレーライスが食べたくなる。(代田)



くまさん

まど・みちお 詩、ましませつこ 絵

こぐま社 | 2017年 | 24頁 | 20×21cm | ISBN 978-4-7721-0235-3 | 2歳から | キーワード: 春 クマ 自然

まど・みちおの詩「くまさん」の絵本化。春がきて冬眠から目覚めたくまの子は、たんぼぼを見ながら「ええと ぼくは だれだっけ」と考える。そして、川にやってきて自分の姿を見て「そうだ ぼくは くまだった」と喜ぶ。冬眠から目覚めたぼんやりした様子、周りの自然を体全体で楽しむ様子、自分が誰かわからずちょっと不安になる様子、そして熊であることを実感して満足する様子が柔らかなタッチでユーモラスに描かれている。(土居)



ぱーおーぽのうた

きくちきき 作・絵

佼成出版社 | 2016年 | 32頁 | 31×24cm | ISBN 978-4-333-02743-9 | 2歳から | キーワード: ソウ リズム 動物

小さな赤いゾウが歌って歩く。「のっち のっち うたお ぱーおーぽ」大きなゾウたちといっしょに上手に鼻を使って草を食べたり、水を飲んだり、においをかいだり。キリンやガゼルは歓迎し、ハイエナやライオンは追い払う。大地を踏み鳴らし、声をあげ、たくましい草食獣たちの大行進だ。のびやかに力強く描く生命賛歌。一見武骨な書き文字も、デザイン全体も作家によるもの。リズムにのって大声で読めば、興奮とよろこびのエネルギーマンがみなぎってくる。(広松)



ゆっくりおでかけ

五味太郎 さく

童心社 | 2016年 | 24頁 | 20×20cm | ISBN 978-4-494-01457-6 | 3歳から | キーワード: おでかけ ペンギン 個性

ペンギンの子が、凍った道の上をゆっくりでかける。転ばないようにそうと進む。でこぼこ道や急斜面も工夫して、気をつけて…… やっと無事におぼさんの家に着いたと思ったら? 「五味太郎 おでかけシリーズ」全3冊のうち本書はゆっくり慎重派の子どもが主人公。他に、何にでも「どん」とぶつかる子が主人公の『げんきにおでかけ』と、自身の少年時代がモデルという『いそいでおでかけ』がある。それぞれの個性がゆかしい。(広松)



ぐるぐるぐる

内田麟太郎 作、長野ヒデ子 絵

金の星社 | 2016年 | 24頁 | 21×28cm | ISBN 978-4-323-03223-8 | 3歳から | キーワード: 回転 女の子 ナンセンス

のんちゃんが「ぐるぐるぐる」と指を回すと、みんな目を回す。ヤンマにはじまり、獺猛なイノシシも、怖いオバケも「ぐるぐるぐる」で降参させてしまう。最後に壮大ないたづらを思いついたのんちゃんが、スーパータワーに向かって「ぐるぐるぐる」すると? ベテランの作家と画家が息のあったリズムとおおらかな展開で、読者の心を解放するナンセンス絵本。カバー袖に書かれたふたりのほらふきメッセージもゆかしい。(広松)



うおいちば

安江リエ 文、田中清代 絵

福音館書店 | 2016年 | 28頁 | 26×24cm | ISBN 978-4-8340-8284-5 | 3歳から | キーワード: 魚市場 図鑑 生活

きよは、朝4時にお母さんに起こされ、魚市場に連れていってもらおう。そこでは、お母さん、お父さん、おじいちゃんが働いていて、たくさんの魚が並んでいる。きよは、おじいちゃんに「きんめだい」を見つけて欲しいといわれ、それを探しながら魚が船から水揚げされる様子、マグロが転がっている様子などを見学。見つけた金目鯛は、おかあさんがせりで落としてくれ、おぼあちゃんのお誕生日の食卓に並ぶ。エッチングの絵が魚市場で働く人たちの様子をいきいきと表現している。(土居)



けもののおいがしてきたぞ

ミロコマチコ 作・絵

岩崎書店 | 2016年 | 32頁 | 27×32cm | ISBN 978-4-265-08148-6 | 3歳から | キーワード: 獣 道 怪物 におい

プラティスラヴァ世界絵本原画展で2017年の金牌を受賞。草花が生い茂り、樹木が覆いかぶさる獣道に、正体不明の獣の黒い影が目を見せつける。岩たちがごろごろ転がり、道がうなり声をあげ、怪鳥が飛び、草も木も震えている。大胆な筆使いによる濃密な場面展開の中から、得体のしれない野獣たちの臭いが立ち上がってくる。野生の生命力にあふれた強烈な絵本である。(野上)



よるのおと

たむらしげる 著

偕成社 | 2017年 | 32頁 | 30×22cm | ISBN 978-4-03-232480-8 | 3歳から | キーワード: 夜 音 自然

夏の夜、池のほとりを歩く男の子がおじいちゃんの家に着くまでを描いた数十秒のドラマ。足元で虫が鳴き、遠くから列車の汽笛が聞こえる。蓮の葉から蛙が池に飛び込むと、水面に銀河のように波紋が広がる。作者が9歳のときに衝撃を受けたという芭蕉の句「古池や 蛙飛びこむ 水の音」が構想のもととなり、60年をかけて絵本に結晶させた。生命が息づくページが五感に語りかける。(広松)



おとうさんは、いま

湯本香樹実 ぶん、ささめやゆきえ 絵

福音館書店 | 2016年 | 32頁 | 20×27cm | ISBN 978-4-8340-8309-5 | 3歳から | キーワード: 親子 冒険

夜、お父さんに絵本を読んでもらう約束をしていた女の子が、お父さんの帰りが遅くなるという電話があったことをお母さんから聞いて、「今お父さんはどこにいるかな」と想像する。それはお父さんが会社で仕事を終えたところから始まり、電車に乗り、商店街を抜け、川沿いの道でかっぱのガタロウに出会って追いかけられ、傘を広げて空を飛び、公園の滑り台に着地し、走って家に到着するまでを思い浮かべる。女の子の思ってお父さんの様子が大胆な構図と温かいタッチの絵で描かれている。(土居)



ばけバケツ

軽部武宏 作

小峰書店 | 2017年 | 32頁 | 31×24cm | ISBN 978-4-338-26128-9 | 3歳から | キーワード: 夜 バケツ 動物 不思議

月夜の晩にバケツが歩いてきて、転んだ瞬間に大きな水たまりができる。ヤマネコがひつくと水たまりが「きゃっ」と声をあげる。フクロウが「ホーホー」鳴くと、水たまりも「ホーホー」。男の子が魚釣りにきたり、ゾウが水浴びにきたり、雨と一緒に魚が降ってきたり、オオカミが水飲みにきたり。そして「もうおしまーい」で水たまりはバケツに吸い込まれていく。バケツの正体は最後に明かされるのだが、月夜の晩の怪しく不思議でユーモラスな絵本。(野上)